

「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」(仮称) 検討状況

令和元年11月
内閣府特命担当大臣
(科学技術政策)

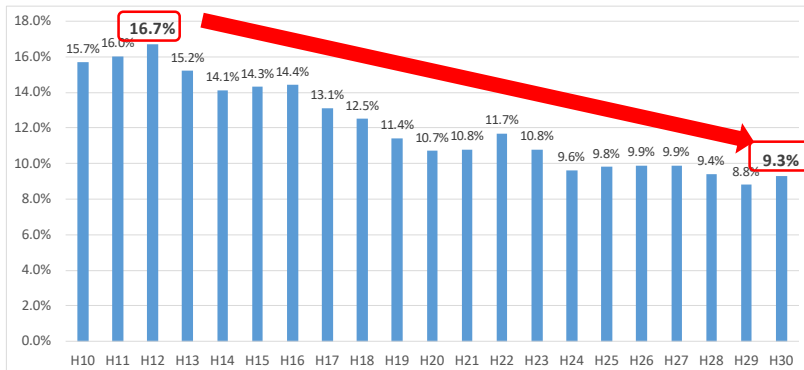


研究力強化の鍵は、競争力ある研究者の活躍 若手をはじめ、研究者を取り巻く状況は厳しく、「研究者」の魅力が低下

修士課程から博士後期課程への進学率が減少

H12: 16.7% ⇒ H30: 9.3%

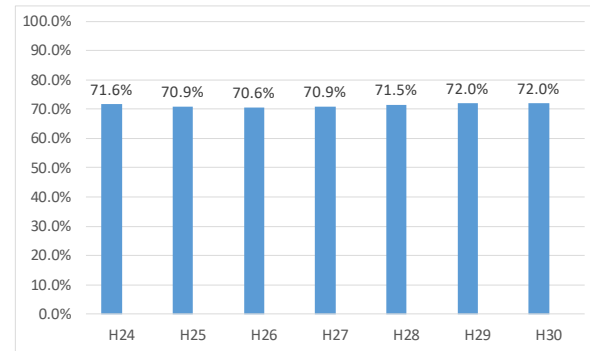
出典: 学校基本統計



博士後期課程修了者の就職率が停滞

H24: 71.6% ⇒ H30: 72.0%

出典: 学校基本統計

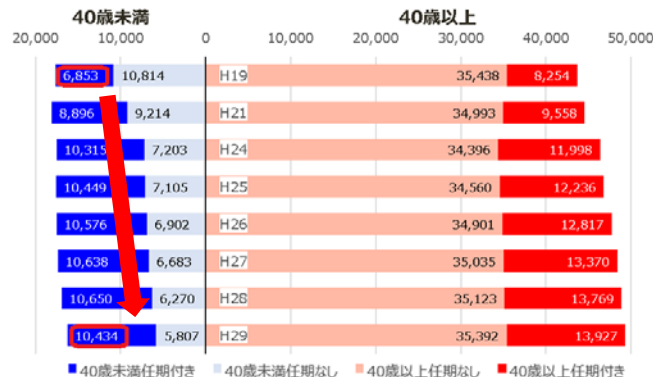


※博士後期課程修了者(満期退学者を含む)に対する、就職者+臨床研修医+ポスドク(就職者に計上されている者を除く)の割合

40歳未満国立大学教員のうち「任期付き」割合が増加

H19: 38.8% ⇒ H29: 64.2%

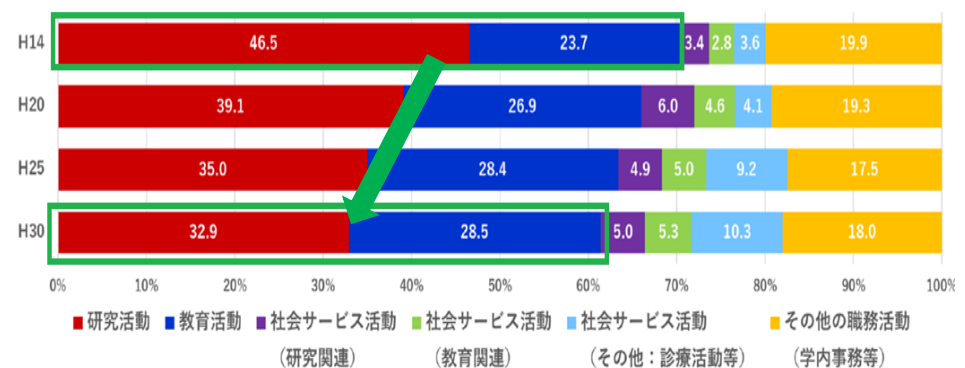
出典: 文部科学省



大学等教員の研究・教育活動の割合が低下

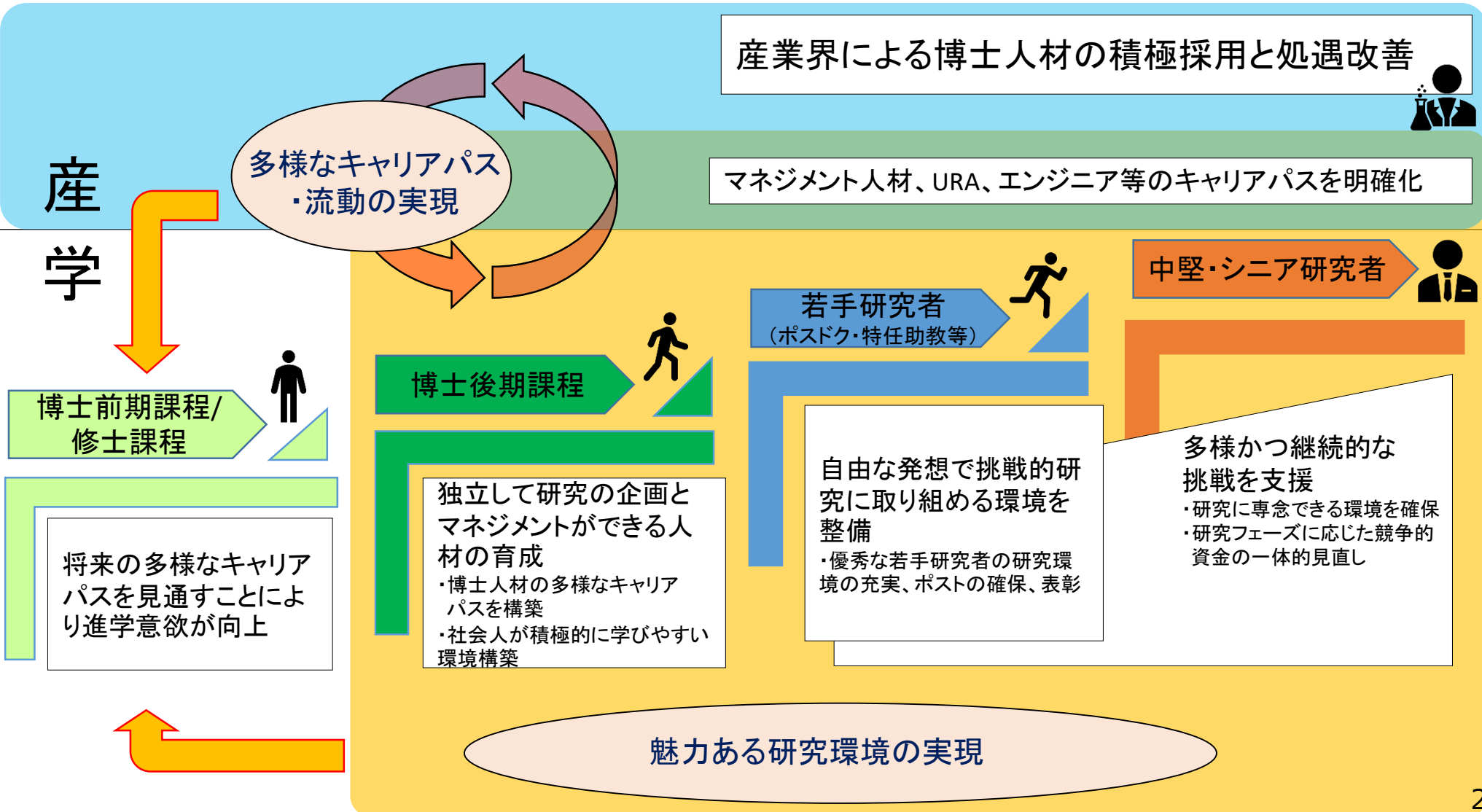
H14: 70.2% ⇒ H30: 61.4%

出典: 大学等におけるフルタイム換算データに関する調査



目標

①若手の研究環境の抜本的強化、②研究・教育活動時間の十分な確保、③研究人材の多様なキャリアパスを実現し、④学生にとって魅力ある博士課程を作り上げることで、我が国の知識集約型価値創造システムを牽引し、社会全体から求められる研究者等を生み出す好循環を実現。



施策の方向性

年内を目途に、「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」（仮称）を策定し、「人材」、「資金」、「環境」の三位一体改革を進め、さらに次期科学技術基本計画等に基づき、大学改革等を実現し、イノベーション創出を加速。

【施策の方向性】

- 優秀な若手研究者のポストの確保、表彰
- 博士人材のキャリアパス(教員、マネジメント人材、URA、エンジニア、産業界等)の拡大（有給インターンの拡充等）
- 研究成果の切れ目ない創出に向け、研究者の多様かつ継続的な挑戦を支援する「競争的研究費の一体的見直し」
- 若手研究者の自由な発想による、挑戦的研究を支援する仕組みの強化
- 大学等の共同研究機能等の外部化によるオープンイノベーションの活性化
- マネジメント人材、URA、エンジニア等のキャリアパスの確立(URAの認定制度等)
- 研究機器・設備の整備・共用化促進(コアファシリティ化)、スマートラボラトリー化の推進等

人材

資金

環境

【主なスケジュール】

